

学校長 殿
理科担当主任教諭各位 殿

平成 22 年 度
財団法人 齋藤憲三顕彰会研究助成募集



故 齋藤憲三先生
(明治31年 2 月11日～昭和45年10月31日)

財団法人 齋藤憲三顕彰会について

故齋藤憲三先生（秋田県にかほ市平沢出身、TDK株式会社創立者）は、生涯、科学技術の振興に努められ、その研究と実践に情熱を傾けて、多大の功績を残されました。当財団法人は、先生の高風を敬慕し、その事蹟を顕彰するとともに、その意志を継ぎ、故前理事長山崎貞一（TDK株式会社 2代目社長）が、中心となって、昭和46年に設立されたものであります。

先生の終生の念願であった科学技術の向上発展のためには、まず、少年時代から“科学する心”の芽を育成することが、最も効果のあるものと考え、当財団法人は、その事業の一つとして、秋田県の理科教育振興のため、毎年、県内の小、中、高等学校、盲・聾・養護学校が、推進する児童・生徒のグループ研究と、教員の個人指導に対して、助成金を贈呈しております。

平成22年度グループ研究の助成校及び教員の個人研究助成を、別記要項により募集いたしますので、当財団法人の趣旨を、ご理解の上、是非、応募活用下さるようご案内申し上げます。

平成22年 4 月

財団法人 齋藤憲三顕彰会

研究助成の募集要項 (グループ研究用)

1. 応募資格

秋田県内の国公立小・中・高等学校（盲・聾・養護学校・定時制校等を含む）で児童・生徒の科学・技術する心の育成に、意欲的に取り組む学校であり、本年度のテーマを持って、研究活動をしようとする児童・生徒のグループ。

2. 研究課題

自然科学に係わる分野における具体的なテーマであること。（理科の学習指導要項にあげられている内容そのものの研究よりも、それらに関連する問題を、更に深く掘り下げるとか、あるいは、郷土の自然に関する研究テーマ等がのぞましい。）

但し、高校の場合は、工業・農業・水産・家庭等に関する専門分野の研究テーマでもよい。

3. 助成研究の期間

助成研究の期間は、毎年4月1日から翌年1月末までとします。

なお、継続的な課題研究であっても、1か年を区分とします。

4. 応募方法

当研究助成を希望される学校は、当会の、所定の応募用紙により、期限までに、申込み手続きをして下さい。（同一校からの複数応募可）

申込み・・・・・・・・・・・・・・・・別紙、様式 - 1 ~

(1) 期 限 5月21日(金)必着のこと

(2) 記入内容

学校の概要と研究グループ

研究課題にその趣旨（簡潔に）

助成金の使途内訳

具体的な研究実施計画

(3) 応募書類の提出部数 原 本 1部、コピー 12部

5. 助成校の選定と通知

当会の特別委員会で、審査の上、決定する。

その結果は、速やかに学校長宛通知します。（6月上旬）

6. 助成校数及び助成金額

小 学 校	20校程度	1 校当り	8 ~ 12万円
中 学 校	20校程度	"	12 ~ 18万円
高 等 学 校	8 校程度	"	20 ~ 25万円
盲・聾・養護学校	2 校程度	"	15万円程度

7. 助成金の使途

助成金は、研究課題の研究過程において、必要な器具、参考資料、交通費等諸経費に充当のこと。

8. 研究結果の報告

助成研究は、翌年1月末までに、下記様式による研究報告書を、当会へ提出する。

継続研究の場合は、当年度1か年の研究報告書を提出する。

1) 表紙 (別紙、様式 - 2) には、下記内容を明記し、次の報告概要を付して提出する。

- (1) 研究課題
- (2) 学校名とクラブ名
- (3) 指導教諭名
- (4) クラブ生徒氏名
- (5) 学校長氏名及び学校長印

2) 報告概要 (別紙、様式 - 2) は研究報告書要領 (P 8) により、下記事項を作成する。

- (1) 研究の動機、目的またはねらい
- (2) 研究のすすめ方、実施の方法及び経過内容
- (3) 研究成果とまとめ
- (4) 反省と今後の課題
- (5) その他付記

参考文献

他団体への発表実績及び受賞状況

- (6) 会計報告 (領収書は不要)

3) 報告書の綴込み方法



指定の表紙 (様式 - 2) をつけて、左上を1箇所ホッチキスで留める。
報告書をファイル及びケースに入れないうご注意願います。

4) 研究報告書の提出部数 原本 1部、コピー 12部

(下記 注 : 1 参照のこと)

注 : 1 . 原本とは報告書に用いた写真・図表・スケッチ・地図等を用いて、印刷製本ができる程度の正確さ・鮮明さを有するものとします。

2. 課題研究を中止とするときは、当会に通知し、助成金の返還を要することに留意して下さい。

9. 特 典

優秀な助成校に対しては、後日厳選の上、齋藤憲三奨励賞として、賞状と共に、賞金並びに記念の楯を贈り表彰する。

10. 参考（研究助成プロセス）

- | | | |
|----|--------------|--------------------|
| 1) | 研究助成校募集期間 | 4月 |
| 2) | 研究助成申込書類提出期限 | 申込み5月20日(木)必着厳守のこと |
| 3) | 助成の決定、助成金交付 | 決定6月中旬、助成金交付6月下旬 |
| 4) | 助成研究の現地視察指導 | 9月 |
| 5) | 助成研究報告書提出期限 | 平成23年1月25日(火) |
| 6) | 齋藤憲三奨励賞の選考 | 平成23年2月下旬 |
| 7) | 齋藤憲三奨励賞の交付 | 平成23年3月下旬 |

[申込先及び報告先]

〒018-0493 秋田県にかほ市平沢字画書面15

T D K株式会社内

財団法人 齋藤憲三顕彰会事務局

TEL (0184) 35 - 6545 (佐藤敬一) 又は 35 - 6515 (小幡正則)

FAX (0184) 35 - 4949 (佐藤敬一) 又は 35 - 6586 (小幡正則)

ホームページアドレス : <http://www.saito-kenzo.jp>

メールアドレス : info@saito-kenzo.jp

受付日	平成 年 月 日	番号	No.
-----	----------	----	-----

採	否
---	---

財団法人 斎藤憲三顕彰会
 理事長 巴 徳 雄 殿

財団法人 斎藤憲三顕彰会 “グループ研究” 助成申込書

平成 年 月 日提出

(1) 学校の概要と研究グループ				
学 校 名				
所 在 地	〒 _____			
	T E L No.			
	F A X No.			
児 童 生 徒 数	学級数		教員数	
研究グループ名	グループ 構 成 数		年生	人
			年生	人
			年生	人
指 導 教 員	氏 名	専 攻 科 目	校 務 分 掌	担 当 ク ラ ブ
	(1)			
	(2)			
	(3)			
貴会の研究助成募集要項に基づき申込みます <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> 学校長氏名 _____ </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 80px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 学校長 印 </div> </div>				

(2) 研究課題とその要旨

イ. 研究課題

ロ. 研究課題の要旨（動機、ねらい、目的等）

(3) 助成金の使途内訳（具体的に）

助成申請額 万円

(4) 具体的研究実施計画

平成 22 年度

(財)齋藤憲三顕彰会 助成研究報告書 (グループ研究用)

平成 年 月 日提出

研究課題：
〔新規・継続〕

学校名及び クラブ名：	指導の先生と部員メンバーの 写真を貼付下さい
指導教諭：	
生徒氏名： (代表)	

貴会より助成を受けた上記研究の成果を報告します

学校長氏名

学校長
印

財団法人 齋藤憲三顕彰会

理事長 巴 徳 雄 殿

—— 財団法人斎藤憲三研究報告書要領 (グループ研究用) ——

1. 助成研究報告書は、次の要領で作成し、表紙（様式－2①）に付して提出する。

- (1) 用紙はA4サイズで、縦長、横書きとする。パソコン、ワープロ可。
A - 4版手書きの場合必ずしも400字でなくてもよい。
- (2) 枚数は、文字、図表、写真類を含め20ページ以内に収まる枚数とする。
（1ページには、横23字×縦37行の2段組で1,702字入る。—— 見本添付（P9）
従って、図表、写真類を含め、1,702×20ページ以内に収めてください。）
- (3) 図、グラフ、コンピュータのプリント、写真類はできるだけ精選し、鮮明なものを用いる。
- (4) 指導された先生と部員メンバーの写真を表紙に貼付下さい。

2. 報告書の内容は、概ね、次の項目をもって構成する。

但し、必要に応じ、各項目の中を、適宜細分してかまわない。

- (1) 研究の動機、目的又はねらい（研究テーマの設定した事由と目的又は、ねらい、なお、継続テーマの報告のときは、前年までの研究概要も、要領よく記入する。）
- (2) 研究の進め方、実施の方法及び経過内容（どんな研究のやり方や考え方をもち、この課題に取組み推進しようとしたかを記し、研究の構想に添って、進められた具体的研究の方法、プロセスとその結果を、順を追って記す。又、必要に応じて図示、写示、項目を細分して説明する。）
- (3) 研究成果とまとめ（まとめとして、研究の完了結果と帰結、考察の結びを記す。）
- (4) 反省と今後の課題（研究の課題を振り返って、設定課題に対する成果が、十分に満足出来るものであったかどうかの反省と、残された課題や、更に、追求する為の課題につき記す。）
- (5) イ. 参考文献（研究を推進するに当たって、参考に付した文献を明記する。）
ロ. 研究発表実績及び受賞可否（当該研究につき、他団体に報告、発表、受賞の実績がある場合、その発表形態、時期、団体名、入賞結果を列記する。）
- (6) 会計報告（具体的に、支出の項目と金額を列記する。領収書は不用。）

以上

研究報告書見本

23字 × 37行 × 2段 = 1,702字

23字

23字

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	

研究助成の募集要項（個人研究用）

1. 応募資格

秋田県内の小・中・高等学校（養護学校・定時制校・高専等を含む）の理科学担当教育で、その職にあり、自然科学（高校教員の場合は、工業・農業・水産・家庭等に関する専門分野の研究でもよい）に関する研究をしている者。又、意欲的にしようとしている者。

2. 研究課題

自然科学に関する研究テーマであること。

但し、自己の資質を高め、以後の教育指導に役立つものであること。

3. 助成研究期間

原則として、翌年1月末日までとする。

但し、研究課題の内容によっては、2～3年継続助成することもある。

4. 応募方法

当会所定の応募用紙（別紙様式 - 1 A～C）、所定事項を記入の上、申込みを行う。

その他応募方法は、グループ研究募集要項に同じ。

5. 助成研究者の選定と通知

グループ研究の選定と通知に同じ。

6. 助成人数と助成金額

1) 助成人数 ・ ・ ・ ・ ・ 若干名

2) 助成金額 ・ ・ ・ ・ ・ 1人当り 15～20万円

7. 助成金の使途

グループ研究の使途に同じ。

8. 研究結果の報告

研究結果の報告は、（様式 - 2 A）の表紙に、報告事項を適宜作成の上、報告する。

報告事項については、グループ研究募集要項に準ずる。

受付日	平成 年 月 日	番号	No.
-----	----------	----	-----

採	否
---	---

財団法人 斎藤憲三顕彰会

理事長 巴 徳 雄 殿

財団法人 斎藤憲三顕彰会 “個人研究” 助成申込書

平成 年 月 日提出

(1) 申込者身上					
(ふりがな) 申込者氏名	印	性別	年令	満才	
勤務先名 (学校名)		職名			
勤務先所在地	〒 _____ TEL No. FAX No.				
学歴 (最終)					
職歴					
研究歴					
上記申込者の研究は、貴会の助成対象にふさわしいものと認め推薦します					
学校長氏名 _____			<table border="1" style="width: 100px; height: 80px;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">学校長 印</td> </tr> </table>		学校長 印
学校長 印					

(2) 研究課題とその要旨

イ. 研究課題

ロ. 研究課題の要旨（動機、ねらい、目的等）

(3) 助成金の使途内訳（具体的に）

助成申請額 万円

(4) 具体的研究実施計画

平成 22 年度

(財)齋藤憲三顕彰会 助成研究報告書 (個人研究用)

平成 年 月 日提出

研究課題：

[新規・継続]

研究期間： 平成 年 月 ～ 平成 年 月

貴会より助成を受けた上記研究の成果を報告します

所属名：

研究者氏名：

印

学校長氏名：

学校長
印

財団法人 齋藤憲三顕彰会

理事長 巴 徳 雄 殿

区分	賞	学 校 名	研 究 課 題	助 成 金
小 学 校	1	秋田市立 大住小学校	透明な水の中のモヤモヤ	50,000
	●	秋田市立 戸島小学校	「シャボン玉の研究」	120,000
		秋田市立 港北小学校	「ど根性大根の秘密を探る」	120,000
	●	秋田市立 旭北小学校	きれいな花やおいしい野菜をつくるには？	120,000
		にかほ市立 小出小学校	小出地域の水に住む生き物をさぐる ～伊勢居地地区にすむ水生生物をとおして～	120,000
		にかほ市立 平沢小学校	田んぼの「せき」にすむ生き物 ～平沢のホタルの生活史・環境をさぐる～	90,000
	●	にかほ市立 象潟小学校	カビをおさえる植物の研究2	80,000
		にかほ市立 院内小学校	生物の住みよい場所はどこ？ (土の中の小さなはたらきもの)	120,000
		にかほ市立 上浜小学校	粉はなぜ「だま」になるのか	50,000
	●	にかほ市立 上郷小学校	笹巻のひみつをさぐる	120,000
		能代市立 常盤小学校	ふるさと常盤の「ネギ」を探る	120,000
中 学 校		秋田大学付属 秋田大学教育文化部付属中学校	地球温暖化とその対策	180,000
	◎	由利本荘市立 出羽中学校	灰のはたらき	150,000
		由利本荘市立 岩城中学校	岩城周辺の地層及び化石について	180,000
		横手市立 横手南中学校	線香花火の研究	150,000
		横手市立 鳳中学校	水中の気泡の挙動を探る その3 水面に浮かぶ気泡の謎に迫る	180,000
	●	横手市立 平鹿中学校	「羽ばたけ、僕らのエアロ」	150,000
		横手市立 増田中学校	靴下の研究 ～悩みの解決と防止～	180,000
		県立 横手清陵学院中学校	夏の暑さから守ってくれる植物の秘密を探れ	150,000
		羽後町立 三輪中学校	カビの研究	120,000
		にかほ市立 仁賀保中学校	徹底検証！「マツが枯れる原因は、 本当にマツクイムシなのか」	180,000
	◎	大仙市立 西仙北西中学校	オオクチバスの環境に与える影響とその変化について	150,000
	●	大仙市立 大曲中学校	カプトエビの謎に迫る	150,000
		美郷町立 六郷中学校	六郷の清水群とハリザッコの繁殖	180,000
高 校		県立 横手清陵学院高等学校	安全走行のためのマイコンカー自動走行システムに関する研究その	250,000
		県立 大曲農業高等学校	L E D (発光ダイオード) を利用し植物を育てる研究	250,000

区分	賞	学 校 名	研 究 課 題	助 成 金
高 校	3	県立 能代北高等学校	砂糖水振動子事始め	250,000
	4	● 県立 男鹿海洋高等学校	県内トミヨ属魚類の変異について (平成19年度調査)	250,000
	5	県立 新屋高等学校	缶入りコーンポタージュのコーン粒を全て出す 方法	200,000
	6	県立 由利工業高等学校	酸性雨の測定と木々に与える影響について	250,000
	7	県立 本荘高等学校定時制課程	本荘由利地区の独立小河口付近における魚類の出現とその季 節変化 ~ 魚類はこれら河川をどのように利用しているか ~	250,000
個人	1	にかほ市教育委員会 佐藤和広	小・中学生によるタンポポ研究の意義と展望 ~ 父と子8年間のタンポポ研究から ~	200,000
合 計				5,110,000円

区分	賞	学 校 名	研 究 課 題	助 成 金
小 学 校	1	秋田市立 戸島小学校	「カルメ焼きの研究」	120,000
	2 ●	秋田市立 港北小学校	「ネリカ米の研究」	120,000
	3	秋田市立 桜小学校	振子とデジタルビデオカメラを活用した研究	50,000
	4	秋田市立 旭北小学校	きれいな花、おいしい野菜や米をつくるには？ ～ パート2 ～	120,000
	5	にかほ市立 小出小学校	小出学校周辺の水に住む生き物をさぐる	100,000
	6	にかほ市立 平沢小学校	田んぼの「せき」にすむ生き物 ～ 平沢のホタルと環境をさぐる ～	90,000
	7	にかほ市立 象潟小学校	象潟地区の水環境を探る	90,000
	8	にかほ市立 院内小学校	ミミズでリサイクル ～ 土の中の小さなはたらきもの ～	100,000
	9	にかほ市立 上浜小学校	プールの水はなぜ「ぬめる」のか？ ～ 汚れの原因と微生物の関係の謎に迫る ～	80,000
	10 ●	にかほ市立 上郷小学校	甘酒の研究	120,000
	11 ●	にかほ市立 金浦小学校	「金浦温水路大調査 ～ 先人の知恵を科学的に検証する ～」	120,000
	12 ●	大館市立 扇田小学校	畑のキャビア「とんぶり」の正体	120,000
	13	能代市立 常盤小学校	メダカ救出大作戦！メダカを育て隊！増やし隊！	120,000
	14	大仙市立 神宮寺小学校	ヒトの耳ってすごい！	120,000
	15 ●	湯沢市立 湯沢東小学校	エゾタンポポとドタグミの研究	100,000
中 学 校	1	秋田大学付属 秋田大学教育文化学部附属中学校	秋田市におけるヒートアイランド現象	180,000
	2	由利本荘市立 出羽中学校	灰のはたらき	150,000
	3	横手市立 横手南中学校	土の研究 ～ 植物の生えやすい土、生えにくい土 ～	150,000
	4 ●	横手市立 鳳中学校	解明せよ 黒板消しの謎！	150,000
	5 ●	横手市立 平鹿中学校	金峰山の植物の研究	150,000
	6	横手市立 増田中学校	耐震補強を行った管理棟と行わなかった教室棟 の比較	180,000
	7	県立 横手清陵学院中学校	植物の発芽・成長の条件を探れ	150,000
	8	羽後町立 三輪中学校	酸性雨が植物に与える影響	170,000
	9	にかほ市立 仁賀保中学校	徹底検証！「マツが枯れる原因は、本当にマツ クイムシなのか」Part	180,000
	10 ●	大仙市立 大曲中学校	靴ひもはなぜほどけるのか	150,000
	11 ●	美郷町立 六郷中学校	六郷の清水群とハリザッコの繁殖	180,000

区分	賞	学 校 名	研 究 課 題	助 成 金
高 校	1	県立 大館鳳鳴高等学校	「われわれヒトをヒトたらしめている遺伝情報を探る！」	250,000
	2	県立 大館工業高等学校	ものづくりを体験しよう「鑄造に挑戦！」	250,000
	3	県立 横手清陵学院高等学校	環境に配慮した電気自動車に関する研究	250,000
	4	県立 大曲農業高等学校	L E D (発光ダイオード) を利用し植物を育てる研究 (その2)	250,000
	5	県立 大曲工業高等学校	マイコンカーを使用した走行速度の制御技術の研究	250,000
	6	県立 能代北高等学校	水の中のペットボトルとペットボトルの中の水	250,000
	7	● 県立 由利工業高等学校	由利本荘地区の酸性雨の特徴について	250,000
	8	● 県立 由利高等学校	モツゴ属における形態の変異について	250,000
個 人	1	にかほ市にかほ市教育委員会 佐藤和広	子供によるタンポポ研究の意義と展望 ～ タンポポの雑種化に関する調査から～	200,000
	2	県立横手清陵学院高等学校 加藤司	情報通信技術の教育活動を支援する教材・教具に関する実践的研究	200,000
	3	県立大曲農業高等学校 遠藤金吾	「高等学校の理科教育における最先端の分子生物学実習の教育効果と効果的な理科実習指導法の検討」	200,000
	4	県立雄勝高等学校 松田義徳	秋田県笹森丘陵西部の維管束植物資料の整理と活用	200,000
合 計				6,160,000円

平成21年度 研究助成金助成校一覧 齋藤憲三奨励賞受賞校 特別賞 ●金賞 銀賞 ●銅賞

区分	賞	学 校 名	研 究 課 題	助 成 金
小 学 校	1	秋田市立 戸島小学校	「わくわくドキドキ実験大作戦」	120,000
	2	秋田市立 港北小学校	「ネリカミの研究」	120,000
	3	秋田市立 旭北小学校	花・野菜・イネの成長と環境条件とのかかわり	120,000
	4	にかほ市立 小出小学校	学校周辺地区の水辺にすむ生き物をさぐる	80,000
	5	にかほ市立 平沢小学校	田んぼの「せき」にすむ生き物 ～平沢のホタルと環境をさぐる～	90,000
	6	にかほ市立 象潟小学校	象潟地区の水環境を探る2 ～象潟地区の酸性雨について調べよう～	60,000
	7	●にかほ市立 院内小学校	ミミズでリサイクル ～土の中の小さなはたらきもの～	120,000
	8	●にかほ市立 上浜小学校	プールの水はなぜ「ぬめる」のか？パート2 ～汚れの原因と微生物の関係の謎に迫る～	80,000
	9	◎にかほ市立 上郷小学校	ドライフルーツの研究	120,000
	10	●にかほ市立 金浦小学校	「金浦温水路大調査 PART ～先人の知恵を科学的に検証する～」	120,000
	11	湯沢市立 湯沢東小学校	エゾタンポポとドタグミの研究	100,000
中 学 校	1	秋田大学付属 附属中学校	秋田市におけるヒートアイランド現象 その2	150,000
	2	由利本荘市立 出羽中学校	「金平糖の角」 ～数を決める条件は何なのか～	180,000
	3	横手市立 横手南中学校	自転車を安全に停止させるには	180,000
	4	横手市立 鳳中学校	七日市沼浄化プロジェクト	180,000
	5	横手市立 平鹿中学校	平地で繁殖するアオサギの研究	180,000
	6	●横手市立 増田中学校	自転車の性能と安全性に関する研究	180,000
	7	県立 横手清陵学院中学校	有線リモコンによる操作型ロボットの開発・研究	150,000
	8	羽後町立 三輪中学校	光合成の研究 ～効率よく光合成を行うには～	170,000
	9	にかほ市立 仁賀保中学校	徹底検証！「マツが枯れる原因は、本当にマツクイムシなのか」Part	180,000
	10	●大仙市立 大曲中学校	靴下を長持ちさせるには	150,000
	11	●美郷町立 六郷中学校	六郷の清水群とハリザッコの繁殖	120,000
	12	●美郷町立 仙南中学校	身近に起きる自然現象によって、今後の天気 が予想できるかどうかを検証する	150,000
高 校	1	県立 大館鳳鳴高等学校	インドネシアシーラカンスを材料にした生物・ 化学的研究	250,000
	2	●県立 大館鳳鳴高等学校	地域バイオマスの有効利用に関する研究	250,000
	3	県立 大館工業高等学校	ものづくりを体験しよう「鑄造に挑戦！その2」	200,000

区分	賞	学 校 名	研 究 課 題	助 成 金
高 校	4	● 県立 新屋高等学校	男鹿の名物「石焼き鍋」に使用される岩石の研究	200,000
	5	● 県立 横手清陵学院高等学校	環境に配慮した電気自動車に関する研究 Part 2	250,000
	6	● 県立 大曲工業高等学校	クリーンエネルギーを利用したエコカーの研究	250,000
	7	● 県立 能代高等学校	木材の香り成分についての研究	250,000
	8	● 県立 能代高等学校	缶サットの製作及び打ち上げ	250,000
	9	● 県立 由利工業高等学校	由利本荘地区における酸性雨の特徴を調べる	250,000
	10	● 県立 由利高等学校	アキタブキの成分抽出と残渣の有効利用について	250,000
	11	◎ 県立 由利高等学校	ホトケドジョウの生態と形態の地理的変異	250,000
	12	● 県立 由利高等学校	ヨコエビにおける交尾前ガードについて オスの繁殖戦略	250,000
	13	● 県立 大曲農業高等学校	LED（発光ダイオード）を利用し植物を育てる研究（その3）	250,000
個 人	1	NHK学園高校 小野 一 巳	両羽海岸地域における水産業の展開	100,000
	2	秋田明德館高等学校 岩谷 宣 行	水産業における地産地消 ～ 秋田県産水産物の流通形態を事例として ～	100,000
	3	金足農業高等学校 田中 大 介	秋田県の植物遺伝資源保全に関する研究	200,000
	4	横手清陵学院高等学校 須田 宏	剛体の回転運動について仮説と検証を重点化した授業の開発と探求スキルの涵養に関する指導法の検討	200,000
	5	横手清陵学院高等学校 伊藤 哲	誰にでもつくれる、つかえる、ロボット競技用制御基盤の開発と普及	200,000
合 計				7,050,000円

昭和47年度～平成21年度までの研究助成状況

区 分	小 学 校			中 学 校			高 校			養 護 学 校 等			教 職 員		団 体 ・ 大 学		合計金額
	校 数	金 額	参加人員	校 数	金 額	参加人員	校 数	金 額	参加人員	校 数	金 額	参加人員	人 員	金 額	数	金 額	
	校	万円	人	校	万円	人	校	万円	人	校	万円	人	人	万円		万円	万円
昭和47年度	3	90	21	3	120	36	1	50	8								260
昭和48年度	9	90	86	6	120	78	2	50	26								260
昭和49年度	8	80	102	6	120	86	3	75	46				7	55	1	10	340
昭和50年度	8	80	105	8	120	85	2	50	50				8	70			320
昭和51年度	6	60	106	6	90	76	2	50	36				11	100			300
昭和52年度	9	90	112	7	105	91	2	50	18				8	90			335
昭和53年度	4	40	109	5	75	79	2	50	43				8	85			250
昭和54年度	10	100	139	10	150	134	3	75	38				5	60			385
昭和55年度	16	160	179	11	165	152	1	25	34				5	70			420
昭和56年度	19	190	248	16	240	337	3	75	52				5	50	1	100	655
昭和57年度	11	110	139	10	150	94	2	50	51				7	90	1	30	430
昭和58年度	16	160	185	10	150	177	2	50	39				7	100	2	73	533
昭和59年度	18	180	255	13	195	185	3	70	46				5	80	4	105	630
昭和60年度	20	200	353	17	255	185	2	50	39				5	70			575
昭和61年度	19	190	221	15	225	207	3	75	60				5	75	1	100	665
昭和62年度	18	180	367	10	150	95	5	125	91				6	90			545
昭和63年度	18	180	271	10	150	100	3	75	59				3	60	3 特別	1 90 200	755
平成元年度	18	180	240	9	127.5	89	3	75	36				2	20	1 特別	1 50 200	652.5
平成2年度	17	170	273	13	195	150	2	40	21				3	55	特別	1 200	660
平成3年度	23	230	358	7	105	78	2	50	42				4	80	特別	1 200	665
平成4年度	24	240	324	23	340	323	9	225	65	2	35	15	2	45	1	400	1,285
平成5年度	14	140	188	12	180	127	4	100	65	1	20	4	2	50	1	400	890
平成6年度	25	250	295	17	255	202	7	175	117	2	25	21	1	20	1	400	1,125
平成7年度	19	190	245	13	195	179	7	175	89				1	20	1	400	980
平成8年度	21	210	277	15	225	215	8	184	99				1	20	1	400	1,039
平成9年度	20	200	208	13	195	100	7	161	68	2	30	35			1	400	986
平成10年度	32	320	411	14	210	192	4	92	45	1	15	34			1	400	1,037
平成11年度	19	190	284	13	195	127	2	46	21						1	400	831
平成12年度	12	113	161	14	210	223	5	115	39	2	30	42			2	500	968
平成13年度	18	179	306	15	223	156	6	138	103						2	480	1,020
平成14年度	13	130	210	17	255	231	5	115	38				1	20	2	250	770
平成15年度	11	106	132	18	262	193	6	121	43				1	20			509
平成16年度	11	106	127	15	240	151	5	120	38				1	20			486
平成17年度	11	118	138	14	216	199	4	990	40				1	20			453
平成18年度	12	127	135	13	195	149	7	169	42								491
平成19年度	11	111	262	13	210	131	7	170	42				1	20			511
平成20年度	15	157	322	11	179	131	8	200	63				4	80			616
平成21年度	11	113	297	12	197	112	9	315	159				5	80			705
合 計	569	5,760	8,191	454	6,990.5	5,655	158	3,930	2,011	10	155	151	125	1,715	14	558	24,338.5

指導者の皆様へ

秋田県教育委員会

平成22年度春の「財団法人斎藤憲三顕彰会研究助成」の募集に対して、クラブ活動、部活動、総合的な学習の時間の学習グループ、及び選択教科理科の研究グループなどから積極的に御応募いただきたく、よろしく願い申し上げます。

また、財団法人斎藤憲三顕彰会の支援の基に県教育研究会理科部会が毎年秋に主催している全県児童生徒理科研究発表大会において、各校のグループ又は個人が地道に行っている研究成果を発表することも、子供たちの科学への夢を膨らませ、探究心の向上を保障する機会となっております。

この機に、秋の発表に向け、春から計画的に研究活動を進め、じっくりと取り組むことができるよう支援するとともに、率先して発表会に参加して意見交換することが期待されます。

なお、財団法人斎藤憲三顕彰会から県内のすべての学校に恵与された『齋藤憲三物語』についても、すでに99%の学校が、小学校のクラブ活動や、中学校の必修理科における一部の単元などで鑑賞したとの報告がありました。このことにつきましても様々な場面で御活用くださいますようお願いいたします。

自由研究の進め方

1 テーマを見付ける

テーマはこんなところにあります。

授業の中で疑問に思う 校内外を歩く 人（友達や家族、先生に聞く）

家の外に出る テレビを見る インターネット（ホームページ）で調べる

遠足や社会見学で不思議に思う……など。つまり、どこにでもあるということです。

子供は、「熱しやすくさめやすい」のが当たり前です。いったん選んだ以上はこれを自分の問題として強く認識し、自力で探究していこうと努力する気持ちをもたせるために、テーマを決定するまでの留意点として

- (1) 教師は、日頃から理科の授業などを通して、子供自身が日常の事象を一応疑ってみる力を身に付けさせ、自然の物事・現象の中に不思議さを感じることができるよう感性を磨いてやる。
- (2) 子供が疑ってみたことに対して、教師も同じ目線で一緒に調べていくよう心掛ける。
- (3) 子供の強い興味に合致したテーマの選定や、個に応じたテーマを設定できるよう助言する。
- (4) 研究途中の激励や探究方法の発見に協力するなどの支援よりも、テーマ決定時に「郡市理科研究発表会で発表する」あるいは「科学論文コンクール」に出品するなどの途中駅や終着駅の目標をもたせるようにする。

このような教師の支援があって、初めて子供は自発的に努力するようになり、また、こうして得た結果味わう成功感や充実感は、体験者だけが感得できるものであって、これが、次のステップに強い探究意欲となって現れてきます。

これまで、全国のトップクラスの評価を受けた他県の中高生の研究例として、次のようなものがあります。

- ・「砂時計をひっくり返すと砂が全部落ちるまでの時間が違うのは、なぜ？」
- ・「スパゲッティが中央で折れないわけ？」
- ・「リンゴのあくはなぜできるの？」
- ・「カタツムリの筋肉はどんなふうに動く？キャタピラのようになっているのかな？」
- ・「スルメを焼くとどうして決まった方にめくれあがる？」
- ・「 地方に雷が落ちやすいのはなぜ？」

よいテーマは、意外と身近で誰もが注目しそうなものであるという共通点をもっています。

2 研究の進め方

(1) 研究の計画を立てる

何を（何のために＝どんな目的で） いつ どこで どうやって（研究の方法）

(2) 気付いたことはノートに記録する 観察・実験のことだけでなく必要事項を全部メモする

(3) 観察・実験をする

順序よくやる 簡単に結果の出るものは繰り返し行う。

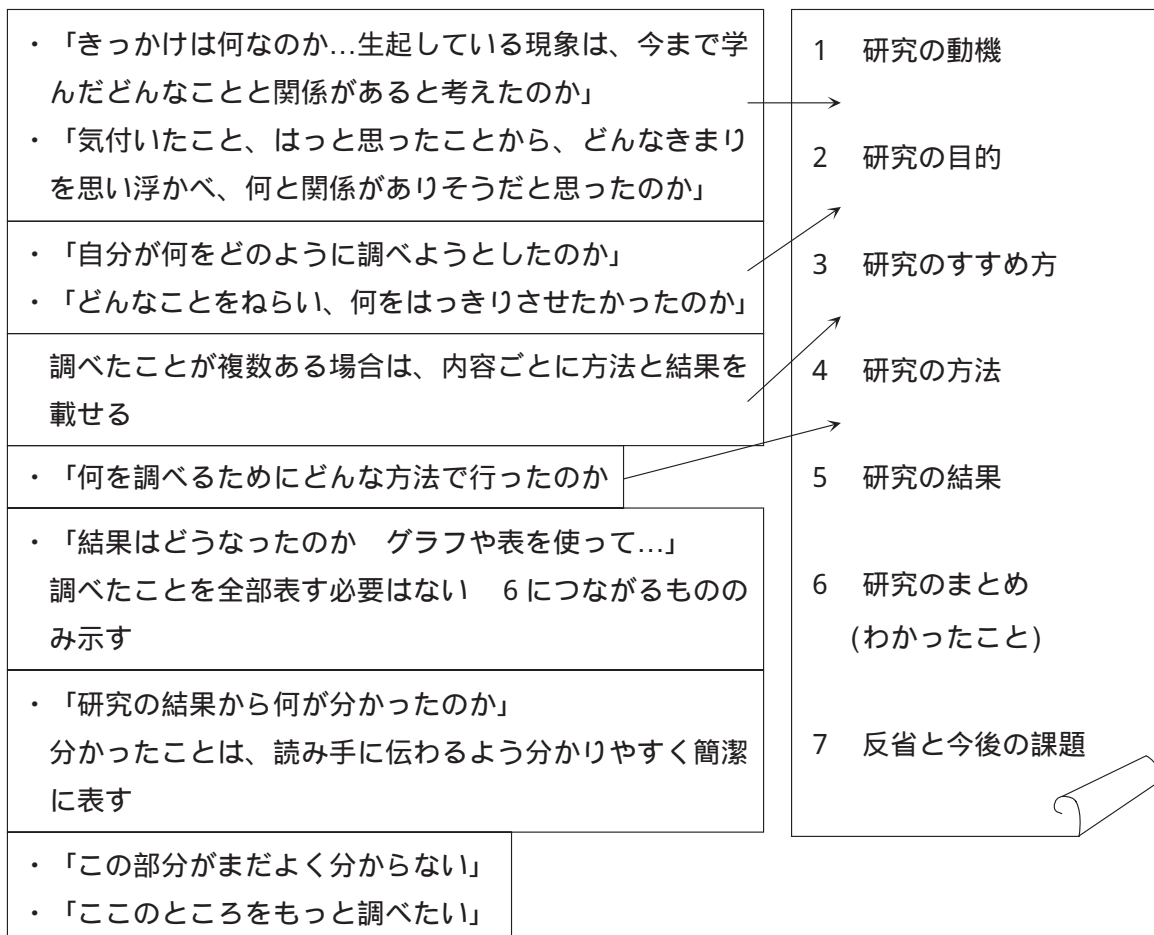
比べるときは条件を考える 一つのことを比べるときは他の条件をすべて同じに 条件制御

より正しく記録するために、利用できる機器をすべて利用する（カメラ、ビデオカメラ...）

3 研究のまとめ

(1) まとめる手順

(例)



(2) まとめ方

ノートやレポート用紙にまとめる (図表はのりで貼る)

原稿用紙にまとめる (子供自身がワープロソフトで打つ)

アルバムを使ってまとめる 分かりやすい

模造紙にまとめる 研究発表会における一般的な方法 OHP

ビデオ (物体の動きや動物の行動などコマ送りするもの一手段)

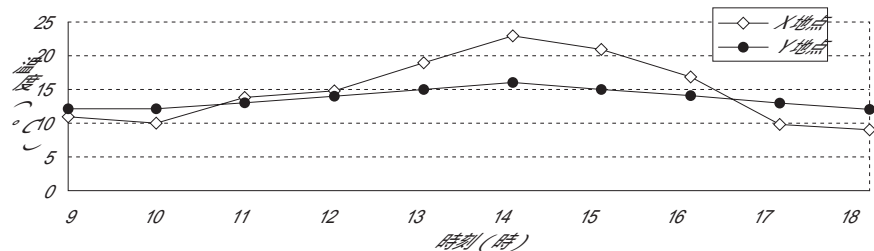
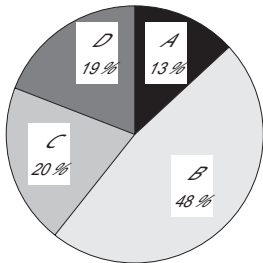
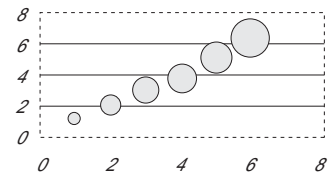
パソコンのプレゼンテーションツールでまとめる それだけで分かりやすいが、音声を吹き込んだものを作ると「発表」そのものを記録として残すことが可能になる。

(3) 図表や資料はもっとも適切なものを

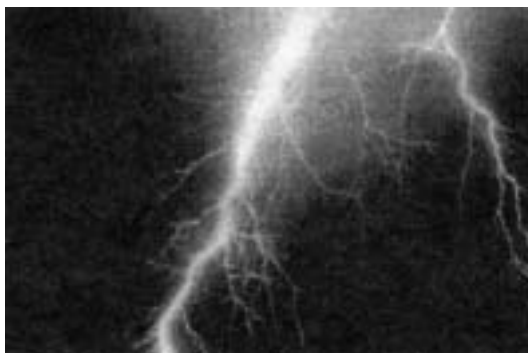
割合だったら、円グラフや帯グラフ

時間を追っての変化だったら、折れ線グラフ

二つの比較だったら棒グラフ...など 適切なものを使う

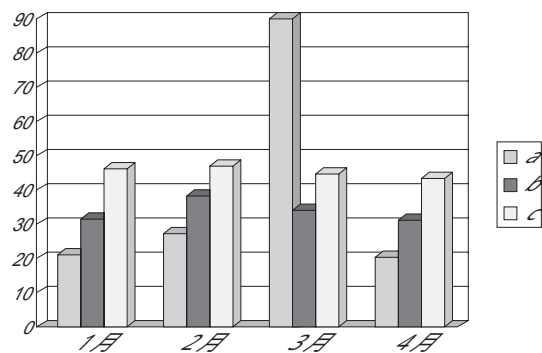


最大の秘訣は 迫力のある決定的な写真



いなずまの様子

インパクトのある分かりやすい図表



三つの事象を比較したグラフ